

令和 8 年度 第 2 回 東京都感染症対策連絡会議

令和 8 年 6 月 4 日（木）午後 4 時 00 分

都庁第一本庁舎 42 階特別会議室 A

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

それではただいまから令和 8 年度第 2 回東京都感染症対策連絡会議を開催いたします。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私が進行を務めさせていただきます保健医療局感染症対策調整担当部長の宮田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。委員のご紹介につきましては議場で配布させていただきました出席者名簿に代えさせていただきます。

また、本日の資料につきましては、本会議終了後にホームページで公開、また、議事録につきましては整い次第、後日ホームページで公開させていただきます。それでは、続きまして、座長の栗岡副知事からご挨拶をお願いいたします。

[栗岡副知事]

それでは会議の冒頭で一言申し上げます。本日は専門家の先生方 4 名、ご参加いただいております。感染症医療体制戦略ボードから、国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 国際感染症センター長の犬曲先生です。同じく医療体制戦略ボードから東京都医師会の小平先生が Web 上でのご参加となっております。医療体制戦略監の上田先生、東京 iCDC 所長の賀来先生、大変お忙しい中、本会議にご出席いただきありがとうございます。東京都感染症対策連絡会議につきましては、前回 5 月の第 1 回会議では、WHO の緊急事態宣言を受けまして、エボラ出血熱の対応について確認いただいたところでございます。その際も急遽ご参集いただきましてありがとうございます。

本日の第 2 回連絡会議では、現在注目すべき感染症や都の取組、東京 iCDC の取組について説明がございします。都民の命と健康を守るため、本会議を通じまして、庁内および関係機関との連携を密にし、専門家の皆様のご知見もいただきながら、感染症全般への対策についてご意見を承りたいと思います。よろしくお願いいたします。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

ありがとうございました。それではまず資料 1、注目すべき感染症について。また、資料 2 から 4、都の取組について保健医療局西塚感染症対策調整担当部長よりご説明いたします。

[保健医療局 西塚感染症対策調整担当部長]

資料 1、1 枚目であります。注目すべき感染症 5 件の 1 つ目が急性呼吸器感染症（ARI）になります。5 月 31 日までの第 22 週では定点医療機関あたり患者報告数は 47.83 人で、ほぼ昨年 6 月と同じ水準です。例年夏に新型コロナウイルスや、夏風邪と呼ばれるウイルス性疾患が流行いたします。最新の情報に注意をお願いいたします。続きまして、2

枚目、ARI の病原体の検出状況です。41 か所の定点医療機関から集めた臨床検体を分析しました。一番右に書きました、鼻風邪のライノウイルスが 55%、咳症状がメインのヒトメタニューモウイルスが 27%と多く検出されております。

続きまして 2 つ目、麻しん、いわゆるはしかであります。2015 年の麻しん排除後、現在最も大きい流行が見られます。海外からの輸入例を起点に、これまで複数の集団感染が報告されています。都内では右側のグラフですが、第 17 週をピークに、新規の感染者数は減少しておりますが、散発的な発生報告が続いています。また、麻しんは脳炎など重症化することがあるので、予防が重要です。

次、都の麻しん対策です。麻しん・風しんの定期予防接種の呼びかけです。定期接種対象者に対し、早期の接種をリーフレットや SNS で促しています。また、iCDC のチーム会議を開催し、都民への情報提供について検討いたしました。また、麻しんに暴露した方を対象に、ワクチン緊急接種事業を先月開始しております。都民の皆様には、2 回のワクチン接種を確実に受けること、また、ワクチンを接種したかわからない方には、特に若い世代の方、麻しん抗体検査やワクチン接種を検討してください。

続きまして、エボラ出血熱であります。病原体はエボラウイルス属のウイルスで、6 種類あるうち、現在アフリカでブンディブギョ・ウイルスが流行しています。感染経路は患者の血液や体液との接触であり、空気感染はいたしません。WHO によりますと、確定例はコンゴ民主共和国で 344 例、ウガンダで 15 例に上ります。5 月 17 日に WHO が緊急事態を宣言し、東京都は 19 日、第 1 回の感染症対策連絡会議を開催し、対応方針を確認しております。また、今月 2 日には iCDC のタスクフォースを開催いたしております。

次でございます。都のエボラ対策であります。検疫所の水際対策に東京都も協力しております。正確なリスク評価について都民に情報提供しております。国内で流行する可能性は低いと考えられますが、流行地域に渡航する場合には、最新の情報を得て、患者や野生動物に触れないよう注意してください。

次お願いします。次は、ハンタウイルス肺症候群です。クルーズ船ホンディウス号に乗船した人に発生したハンタウイルス肺症候群は、原因がアンデスウイルスと判明しております。感染経路は、ネズミなどの齧歯類の排泄物の吸入や、また限定的ですが、感染者との濃厚な曝露による飛沫により、ヒトからヒトへの感染事例が報告されています。これまでに感染者 13 名、死亡 3 名が報告されています。ハンタウイルス肺症候群の病原体を媒介する動物は日本に生息していません。そのため国内で感染拡大する可能性は低いとされております。

次お願いします。マダニによる重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) です。全国の患者報告数は年々増加傾向にありまして、昨年過去最多の 191 件でした。今年も昨年を上回るペースで報告が増えています。都内では、網掛けをしています 2019 年、2022 年、また今年それぞれ 1 件ずつ報告がありました。治療にはファビピラビルが承認されております。次、SFTS に関する都の取組です。SFTS が疑われる症例に積極的な行政検査を行っています。医療機関、獣医師会等へ注意喚起を発出しています。都民の皆様には、野外で活動する場合、肌の露出を避けましょう。また、虫よけ剤なども活用しましょう。

ここまですべき感染症であります。続いて、議題の4、東京都の取組3件であります。

資料の2をお示しします。蚊の発生防止強化月間になります。6月1日から30日までです。今年の標語は「蚊無安全」であります。この期間中、啓発動画の放映、ラッピングバスの運行、また、都民・施設管理者向けの講習会を開催します。また、都内25施設に定点観測点を設け、ウイルス保有蚊の発生状況を調査いたします。また、患者発生時には検査体制を確保するほか、ハイリスク地点をホームページで公開いたします。

次、資料3であります。東京都HIV検査相談月間です。こちらも6月1日から30日までHIV検査相談月間と定めております。HIV併発リスクの多い梅毒と同時に検査を実施するほか、新宿東口検査・相談室では予約枠を3割拡大し、クラミジア・淋菌の検査も同時に実施いたします。また、都内18か所の保健所では、土日・夜間など臨時の検査会場を開設します。また普及啓発の取組です。Tokyo Pride 2026が代々木で開かれますが、こちらで匿名無料検査やHIV郵送検査などのイベントに出展をいたします。また、アジア太平洋地域エイズ&感染症会議（APACC 2026）が新宿でこの期間開催されます。こちらと連携をし、都庁前シティドレッシングを行います。また、会議に参加をして、シンポジウムなどで東京の取組を発信してまいります。

資料4です。「子どもの予防接種ポータルサイト」を開発いたしました。麻しんの流行を踏まえまして、保護者やご家族の方に必要な予防接種をわかりやすく説明したり、また、予防接種に関する効果や安全性などをお伝えするポータルサイトです。よくある質問や安全性などの正確な情報を発信しております。東京都の取組は以上でございます。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

ありがとうございました。次に資料5として、東京iCDCの普及啓発の取組について、東京iCDC賀来所長よりご説明いただきます。

[賀来先生]

令和8年度東京iCDCの取組につきまして、主な感染対策ツールの作成につきましてご説明申し上げます。資料5をご覧ください。東京iCDCの感染制御チームでは、都民の皆様や事業者の方々が、日常の感染予防や、発生時の対応に活用できるよう、ハンドブックや動画といった各種ツールの整備を進めております。

まず、都民向けのツールでございますが、資料にありますように、感染症予防ハンドブックを令和7年3月28日に発行しております。この感染症予防ハンドブックは、日常の生活の中で感染症に適切に対応していただくために、主な感染症である全25疾病を対象とした非常に実用的なハンドブックでございます。様々な症状が出たときの参考になる情報、それから疾病別の対策などについて記載をさせていただいております。

続きまして、令和8年3月6日には、このハンドブックをもとにした感染対策動画を公開しております。家の中で家庭で実践できる予防のポイントを分かりやすくまとめた動画10本とショート動画5本を制作しております。

続きまして、事業者向けのツールでございます。これは高齢者施設、障害者施設向けの感染対策動画を令和7年12月5日に公開しております。東京 iCDC 感染制御チームの菅原えりさ先生にご解説をいただき、施設におけるラウンド、すなわち施設の中をいろいろな場所を回っていくのですが、そういったラウンド場面を通じて注意すべきチェックポイントや改善方法などをご紹介した20分程度の動画でございます。非常にわかりやすい動画となっております。

また、保育所などにおける感染対策ハンドブック、これも非常に、感染が多発するところで注意をしなければなりません、保育所向けには令和7年12月19日に感染対策のハンドブックを発行させていただきました。東京 iCDC 感染制御チームの監修のもとで、基本的な感染対策から環境の整備、場面ごとにどう対応すればいいのか、関係機関との連携まで幅広く網羅しております。続きまして、さらに令和8年3月27日には、上記ハンドブックをもとに、感染症の症状別に対応できるポイントをまとめた動画6本を公開いたしました。発熱や下痢、嘔吐、咳、発疹などの症状が出たときに、どのように具体的に対応すればいいのかということについて解説をしております。

以上が、東京 iCDC における主な感染対策ツールの作成状況でございます。都民向け、事業者向けの双方において、ハンドブックと動画を組み合わせた情報提供を進めてまいりました。引き続き、関係団体と連携する旨、周知の活動に努め、現場の活動推進に取り組んでまいりたいと思います。

続きまして、令和7年度の東京 iCDC フォーラムにつきまして開催をさせていただきました。そのご報告をさせていただきます。令和8年1月24日、25日の2日間にわたりまして、都庁第一本庁舎5階大会議室で開かせていただきました。1日目は、「感染症と子ども」をテーマに、都民向けのシンポジウムとして開催させていただきました。冒頭ではご覧になられますように、小池都知事よりビデオメッセージによるご挨拶をいただいております。続いて、東京 iCDC 専門家の方々による「注意したい子どもの感染症」「子どもの免疫力を高める生活習慣」「子どもが集う施設における集団感染対策」などをお話いただきました。また、タレントの庄司智春さんにご参加をお招きし、3人のお子さんのお父様なのですが、育児中の経験をもとに、子どもの感染症に関する様々な疑問を伺いました。専門家に投げかけるトークショー、Q&Aを実施いたしました。専門家から具体的なアドバイスをいただいております。さらに、スライドにあるように、今回は子どもたちのポスターコンクールを行いました。非常に多くの応募をいただき、その中から優れた作品を展示し、表彰式を行い、小学校の皆さんに賞状と賞品を授与しております。

続きまして、これは専門家向けのシンポジウムでございます。2つのテーマで開催いたしました。1つ目のテーマは「サイレントパンデミック」、すなわち静かに広がるパンデミックとして非常に重要視されている薬剤耐性（AMR）についてです。本日もご出席いただいております大曲先生から、日本と世界における AMR の現状についてご講演いただきました。具芳明先生からは医療現場の現状と取組について、また、英国健康安全保障庁（UKHSA）からのアリシア先生からは、英国における薬剤耐性菌対策についてご講演をいただきました。

2つ目のテーマは、これも非常に重要な「リスクコミュニケーション」です。3名の先生方、武藤先生、奈良先生、小嶋先生から、それぞれ「パンデミック時におけるリスクコミュニケーション」「平時におけるリスクコミュニケーション」「現場から考える感染症対応—メディアの立場から」についてお話がございました。座談会では、感染対策における連携や今後の展望について討論を行いました。内閣感染症危機管理統括長の迫井先生、国立健康危機管理研究機構（JIHS）の脇田先生、東京都から成田先生、そして私の4名で連携と今後の展望についてディスカッションいたしました。以上が令和7年度 東京 iCDC フォーラムの開催報告でございます。

続きまして、東京 iCDC 令和8年度の第1回「新型コロナウイルス後遺症オンライン研修会」を6月28日に開催いたします。これは医師、看護師、薬剤師など医療従事者向けのものです。この後遺症オンライン研修会は令和4年度から実施しております。現在ホームページでも公開しており、二人の先生にお話ししていただいております。当日ライブ配信した内容も後日ホームページに掲載予定です。プログラムは、コロナ後遺症の最新情報と、特に嗅覚・味覚障害への対応をテーマに実施します。発表1では大塚先生から、岡山大学病院でコロナのアフターケア外来を開設され5年目を迎えていることから、その診療の現状と今後の課題についてお話いただきます。金沢医科大学の三輪先生からは、コロナ後遺症における嗅覚・味覚障害について、6年間の変遷と再診試験に関する非常に興味深いお話をいただく予定です。申し込み期限は6月23日13時です。今後とも後遺症に悩む方々への支援と、後遺症への理解の増進に努めてまいります。以上でございます。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

賀来先生、どうもありがとうございました。議事は以上となりますが、ここまでで出席の委員の皆様からご発言やご質問よろしいでしょうか。

それでは本日ご参加いただいている専門家の先生方から、全体を通じてコメントをいただければと思います。まず、Webでご参加の小平先生、いかがでしょうか。

[小平先生]

感染症の状況についてご報告ありがとうございました。私からは、マダニ感染症について追加で発言いたします。東京都では資料にありますように発生例は多くありませんが、今年はすでに神奈川県など東京都に隣接する地域で重症熱性血小板減少症候群

(SFTS) の報告があります。安全というわけにはいきませんので、これからのシーズンに向けて、肌の露出が増えることも踏まえ、予防を都民の皆様にも周知していくことが重要だと感じました。また、マダニは皮膚に取り付いて長期間吸血します。無理に取り除こうとすると口器（歯の部分）が皮膚内に残り、障害が出る場合がありますので、医療機関を受診して適切に対応することが大事です。都民への注意喚起に加え、医療機関側も対策の準備を進めることが重要だと考えます。ご検討いただければと思います。以上です。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

小平先生、どうもありがとうございました。続きまして、大曲先生、いかがでしょうか。

[大曲先生]

国立健康危機管理研究機構の大曲と申します。今日はありがとうございました。1 点、麻疹の対応が病院として非常に大変でしたので、所管として御報告したいと思います。排除国であることの意味を実感しました。多くの患者さんが受診されましたが、やはり初期はわからない。特にワクチンを 2 回接種されている方が麻疹で来院しても、初めは感冒との区別がつかず、複数の医療機関を受診するうちに発疹が出て初めて医療者も気づくケースが非常に多かったです。

若い医師には麻疹の患者を見たことがない人がほとんどで、鑑別は難しいというのが実感です。院内曝露もありましたが、結果として分かったのは、ワクチン 2 回接種者からの二次感染は当院ではゼロだったことです。全体としてゼロとは言い切れませんが、当院ではゼロで、広がりを防ぐ意味で 2 回接種が非常に重要であることが分かりました。

一方、未接種者の中には非常に重症の方もおられ、たいへんつらい状況でした。2014 か 19 年（記憶が曖昧ですが）新宿でも 20 代の方で重症例があり、当院も苦勞したことを覚えています。重症化を防ぐ上でも 2 回接種は極めて重要で、麻疹はやはり怖い病気だと再確認しました。

今回の学びは、起こってしまった流行を完全に封じ込めるのは難しいが、広がりを最小限にするためには 2 回接種が本当に重要だということです。一方で、厚生労働省の統計でも 2 回接種率が下がってきているのが気がかりです。これは何とかしないといけない。病院として次に何をやるべきか考えましたが、結局は社会として 2 回接種率を上げていくことが大事で、そのための啓発活動が重要だと思っています。以上です。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

どうもありがとうございました。続きまして、上田先生、お願いいたします。

[上田戦略監]

急性呼吸器感染症（ARI）、発疹、さらにエボラ出血熱やハンタウイルス感染症、SFTS など、今後注意すべき感染症について本日報告がありました。ARI については、ライノウイルスやヒトメタニューモウイルスが多く検出されており、都立病院でも患者を認めています。引き続き流行状況を注視してまいります。

これから夏に向けて野外活動や旅行の機会が増えます。SFTS などダニ媒介感染症の予防のため、草むらや山林に入る際には長袖・長ズボンの着用など、肌の露出を控える行動を心がけてください。

麻疹につきましては、今年に入り都内報告数が 260 件と例年を大きく上回っています。麻疹は感染力が非常に強いため、疑われる症状がある場合には院内感染防止の観点からも、事前に医療機関へ電話で相談の上で受診いただくようお願いいたします。

また、大曲先生からもお話があったように、ワクチン接種は予防に極めて有効です。接種歴が不明な方や接種機会を逃した方は、ぜひ医療機関にご相談ください。都立病院では、都が取り組む麻疹患者の接触者を対象としたワクチン緊急接種事業に7病院が参画しております。

さらに、エボラ出血熱をはじめとする新興感染症に対しても、患者受け入れ体制の整備や必要な備えを進めています。現在、都内の医療提供体制に逼迫は認めませんが、今後の感染症の発生動向を注視しながら、都立病院は行政的医療を安定的に提供する使命のもと、救急患者や重症患者を確実に受け入れ、都民の命と健康を守ってまいります。以上です。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

上田先生、どうもありがとうございました。それでは賀来先生、お願いいたします。

[賀来先生]

本日は注目すべき感染症について説明がございました。特に海外の発生動向を踏まえ留意が必要なエボラ出血熱およびハンタウイルス肺症候群について、6月2日に「ワンヘルスアプローチ推進タスクフォース」を開催しました。本日も出席の大曲先生にもご参加いただき、そのタスクフォースでのコメントについてご説明いたします。

まず、エボラ出血熱です。現在アフリカで流行しているエボラウイルスは患者との濃厚接触で感染するものであり、患者との接触がなければ感染リスクは極めて低い。感染拡大地域と日本との直接往来は限定的で頻度も極めて低く、輸入症例のリスクは低い。現時点でも国内発生は確認されていないことから過度に恐れる必要はありません。通常の感染症予防と同様、手洗い、手指消毒、場面に応じたマスク着用など基本的な感染対策が重要です。発生地に行かれる場合は、厚生労働省、検疫所、外務省、関係国や機関からの最新情報・注意を確認し、感染防止に十分留意してください。

次に、ハンタウイルス肺症候群です。今回クルーズ船を中心に報告された呼吸器症状を引き起こすハンタウイルスを保有するげっ歯類は日本国内には存在しておらず、日本において今回の事例の原因となったハンタウイルスに感染する可能性は極めて低いと考えられます。そのため、現時点では過度に恐れる必要はありません。通常の感染予防と同様、手洗い、手指消毒、場面に応じたマスク着用、換気など基本的な感染対策を実施することが重要です。特に海外渡航時には、野生動物に直接接触しないよう注意してください。

感染症対策は、流行時の対応だけでなく、平時から都民や現場に必要な情報を分かりやすく届け、日常で実践できる備えを積み重ねることが極めて重要です。東京 iCDC としても、今後とも専門家の立場から必要な分析や助言を行い、各感染症の特性に応じた備えと実践的な支援の両面から東京都の感染症対策をしっかりと支えてまいります。以上です。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

賀来先生、どうもありがとうございました。それでは最後に副座長からご挨拶をいただきます。まず福祉局長、高崎局長、お願いいたします。

[高崎福祉局長]

福祉局長の高崎でございます。本日は専門家の先生方にご出席いただき、誠にありがとうございました。大変参考になるコメントでした。本日の会議では、注目すべき感染症の状況について理解を深めるとともに、都の取組および東京 iCDC の取組についても確認できました。

福祉局でも、麻疹対策に重要な定期ワクチン接種の促進や「子どもの予防接種ポータルサイト」の周知などの感染症対策を、018 サポートのメールマガジンなどのチャンネルを活用して発信しております。

また、現場での感染症対策の実効性を高める観点から、ご紹介がございました高齢者施設、障害者施設、児童施設それぞれに向けた対策ツールの活用・普及啓発等を進めてまいります。引き続き、保健医療局と緊密に連携し、感染症対策にしっかり対応してまいります。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

続きまして、保健医療局長、山田局長お願いいたします。

[山田保健医療局長]

保健医療局長の山田でございます。本日は専門家の先生方にもご出席いただき、感謝申し上げます。小平先生からは SFTS について、大曲先生からは麻疹について、上田先生からは都立病院の取組について、賀来先生からは東京 iCDC の取組に加え、エボラ出血熱・ハンタウイルスに関するタスクフォースからのコメントについてお話をいただきました。

この会議では、ARI、麻疹、エボラ出血熱、ハンタウイルス肺症候群、そして SFTS などの状況及び都の対応を確認いたしました。麻疹につきましては、現在は小康状態にあるものの、なお予断を許さない状況です。都は緊急接種事業を開始し、順次拡大しています。さらに「子どもの予防接種ポータルサイト」を開設し、定期予防接種の重要性について情報発信するなど、感染拡大防止に取り組んでいるところです。

エボラ出血熱につきましては、先ほど大曲先生、賀来先生から、都内での流行可能性は極めて低いとの説明がありました。都は日頃の訓練を踏まえ、情報連絡・連携体制、受け入れ体制の確認を行うなど、万全の体制を敷いております。都民の皆様には過度に心配されることなく、通常の感染対策を実践していただきたいと思います。引き続き、国や関係機関、東京 iCDC などの専門家の皆様と連携し、しっかりに対応してまいります。以上でございます。

[保健医療局 宮田感染症対策調整担当部長]

山田局長、どうもありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和８年度第２回 東京都感染症対策連絡会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。